

中原区の特徴や現状

(行政によるまとめ)

区民会議 審議テーマ	区主要課題	現状と主な課題
<ul style="list-style-type: none"> ・新旧住民交流 ・地域人材発掘・育成 ・区の魅力発信 	<p>小杉駅周辺を中心とした新たな魅力の発信及びコミュニティの形成に向けた取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●道路・鉄道ともに幹線が整備され、東京・横浜・川崎のいずれの方向にもアクセスがよいことから、特にこれらが交差する武蔵小杉駅周辺に民間活力を活かした再開発とあわせて、高層マンションが立ち並び、商業施設やショッピングエリアが充実するなど、若い世代の市民の増加と来街者が多く訪れる傾向にある。 ●小杉駅周辺が様変わりする中で、従来から住む住民と新たな住民が共に地域の魅力や課題を協議し、自分たちのまちを良くするコミュニティの在り方が求められ、地域を活性化させるための、産学公民連携や地域の担い手づくり及び地域人材の発掘・育成が不可欠になっている。 ●多くの大型集合住宅の建設に伴い、住宅間での自立的な課題共有及びマンションコミュニティづくりが求められている。 ●地域の情報をメディアを活用しながらより様々な効果的手法で発信し、中原区全域の魅力発信につなげていくことで住民に親しまれるまちにしていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・家庭防災 ・安全啓発活動 ・自転車交通安全 ・交通マナー 	<p>安全・安心のまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災を契機として、地域の特性等を踏まえた地域の防災力の強化が求められている中、地域の防災力の向上には、市民・企業・行政が連携して防災対策に取り組むことが重要であることから、中原区防災連携協議会を設置し災害時の対応等について検討を進め、また、分野ごとに設置した部会において、より実践的な検討を行っている。 ●大型集合住宅の建設や人口増加が進む中、災害に備え自主防災組織の結成を促進するとともに、これまでの町内会を中心とした自主防災組織との連携体制を一層強化する必要がある。 ●各季の交通安全運動や交通安全教室を通じて交通ルールの周知や、自転車マナーの向上を図っていく必要がある。 ●特に高齢者を中心とした、振り込め詐欺事件が多発していることから、対策を強化する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街振興・活性化 ・地域団体活性化 ・地域団体ネットワーク 	<p>地域活性化に向けたコミュニティづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人口増加の状況下で、地域の人たちが交流できるコミュニティの場として商店街を活用し、地域の活性化に向けた取組を継続的に推進していく必要がある。 ●小杉駅周辺における大型商業施設の相次ぐ開業に伴い、多くの来街者が見込まれるものの、既存の商店街の集客力への影響や、経営に対する危機感が強くなっている状況にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車対策 ・自転車交通安全 		<ul style="list-style-type: none"> ●自転車等放置禁止区域において、駅周辺に大量に放置された自転車の撤去作業を強化し、継続的にその啓発活動を行っており、結果として、通勤・通学者による自転車の放置は改善されてきている。 ●買物客の自転車は駐輪時間が短時間のため撤去による改善が見込めないことから、商店街等と連携し、駐輪場の利用状況等を把握した上で、実情に見合う対策を行う必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックに向けた取組 	<p>元気なまちづくりをめざしたスポーツ資源の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地縁意識の希薄化や少子高齢化が進行している中、市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる環境を整備し、健康増進やコミュニティの形成を図ることが課題となっている。 ●新たな住民の流入が著しく子育て世代が多いため、住民同士の交流機会が必要とされている中、誰もが親しめるスポーツは、その交流事業やイベントの素材として最適なツールであり、区内に多く存在するスポーツ資源をいかに活用していくかが課題となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援 ・世代交流 	<p>総合的なこども支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の転出入が多く、子育て世代の孤立化や地域住民同士のつながりが希薄化しており、住民同士で支え合う体制づくりが必要である。 ●地域の方が運営する「子育てサロン」、公民保育園など、身近な施設等を活用した、親子間・世代間の交流ができる場が展開されているが、その数が不足しており、さらなる場が求められている。 ●子育て支援者養成講座受講者による新たなボランティアが定着しない傾向にあり、ボランティアデビューやボランティアに参加しやすい環境づくりが求められている。 ●急激な地域社会の変容により子育てや教育環境に係る様々な地域課題が生じてきているため、乳幼児から高齢者に至る世代間の交流を促進し、地域の教育力を高め、課題解決を図る上で、多様な主体（活動団体・サークル、企業、ボランティアなど）の参加と協働によるまちづくりが求められている。
	<p>環境まちづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境に対する区民の意識は高くなってきたが、現状、地球温暖化防止の取組などは各個人の取組で終わらせず、これらを家族や地域の取組へと発展させる必要がある。 ●区民の環境に対する意識をさらに向上させるため、区民が身近に環境問題を考え、行動することができる取組が必要である。